



## この国の現場を変えられるのは、 御社の技術かもしれない。

生まれる子供の数が減り、働き手はますます高齢化していく国、日本。

人の絶対数が減少していくこの国の将来は、一人ひとりがどのような働き方をしていくかに懸かっています。

いまだ多く存在する、延々と続く単純作業や、肉体的にも精神的にも過酷な労働環境の数々。

こういった現場は、集中力が切れず疲れを知らないロボットに担ってもらった方が良いとは思いませんか。

貴重な人材には、人にしかできない、より付加価値の高い仕事で活躍してもらうべきではないでしょうか。

でも、ロボットはロボットだけでは使えず、周辺機器を含んだシステムとして組まないと機能しません。

なのに、ロボットシステムを組むシステムインテグレータと呼ばれる会社が、実は全然足りていないんです。

人口減とともにロボットの需要が増えていく中、システムインテグレータの存在がカギを握っているのです。

御社の技術やサービスに、ロボットを操る術が合わされば、どんな新しいことができるでしょうか。

御社がシステムインテグレータになることで、この国の現場の在り方を変えるかもしれません。

そこで今、システムインテグレータを支援します。これを機に、ロボットも扱ってみませんか。

経済産業省

ロボット導入促進のためのシステムインテグレータ育成事業

詳しくは、日本ロボット工業会のホームページへ。  
<http://www.jara.jp/hojyo/sierkoubo.html>



## ロボット導入促進のためのシステムインテグレータ育成事業

本事業では、ロボットを使用した機械システムの導入提案や設計、構築等を行う「ロボットSI」事業を行うのに必要な知識や技能、提案能力の習得や、提案型のロボットSIを行うことができる環境の整備、ロボットシステムのモデル構築等を目的とした、ロボットの取得等に要する経費の一部を助成します。

以下のA～Cのタイプのいずれかに合致する優れた提案に対して補助を行います。

補助対象事業者	本事業を契機にロボットSI事業を始める者やロボットSI事業を営んでいる者、協業等によりロボットSI事業を行う連携体、地域でロボット導入提案を行う公設試・地方自治体 等
補助率	中小企業:2/3以内      大企業(中小企業以外):1/2以内
補助対象経費	ロボット本体やロボットに取り付ける機器・周辺装置の購入費や製作に掛かる費用、ソフトウェアの使用料・購入費、人件費、安全講習の受講料 等

※本事業により取得したロボット等は、申請者（ロボットシステムインテグレータ等）が所有する計画である必要があります。他の事業者への譲渡（売却等）、交換又は貸付け等の財産処分を前提とした申請は認められません。  
 ※既存の生産設備等に組み込むことを目的としたロボットシステムを構築する申請は対象として認められません。

<b>A類型</b> ロボットSI事業参入・拡大型	補助金上限額:1,500万円
<b>【提案内容】</b> ロボットSIに必要な知識、技能及び提案能力の習得や高度化を目的として、自らロボット等を取得し、ロボット技術者やロボットシステムの導入提案を担う人材の育成等を通じて、ロボットSIを新たに事業の一つとして展開していく計画や、既存のロボットSI事業の拡大を目指す計画、実演等による導入提案が可能な環境を整備しロボット導入の促進を図る計画を対象とします。	
<b>【例】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、産業用機械を中心に扱っており、ロボットも年に数台程度だが扱った経験はある。今回の補助金を機に、ロボットも本格的に扱える技術を習得し、ロボットを使ったシステム提案を行えるようにすることで、自社の販路開拓を実現する。</li> <li>長年にわたり生産管理を中心としたソフトウェアアプリケーションの開発を行っているが、IoT社会の到来に伴い、実際の製造現場や機器とのデータ連携が不可欠になっていると感じ、ロボットの操作技術を身に付けSI事業への参入を図る。</li> <li>すでに長年SI事業を営んでいるが、これまでは溶接や塗装工程への大型ロボット導入が中心であった。近年、軽作業へのロボット導入の相談が増えてきていること踏まえ、これを機にヒト協調ロボットを購入・研究し業務範囲を拡大する。</li> </ul>	

<b>B類型</b> ロボットセンター開設型	補助金上限額:5,000万円
<b>【提案内容】</b> ロボット導入促進のための環境整備を目的として、多彩なロボットを取りそろえロボットシステムの展示や実演等を通じた導入提案を行うほか、ロボットの操作教育や安全教育、ロボットに関する普及・啓発等の講習を実施していく計画を対象とします。	
<b>【例】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の事業者にもロボットの動きや機能を知ってもらうために、様々なメーカーや種類のロボットを取りそろえたロボットセンターを開設するとともに、ロボット導入後の安全講習や、ロボット導入に関するセミナーを実施してロボット関連の知識の普及を行っていく。</li> </ul>	

<b>C類型</b> ロボットシステムのモデル構築型	補助金上限額:3,000万円
<b>【提案内容】</b> 多くの中小企業等の現場（ものづくり分野、サービス分野）に共通する課題を解決するためのロボットシステムのモデルを構築し、多様な現場にその導入を提案し展開していくツールとすることで、提案型のロボットSIを実現する計画を対象とします。	
<b>【例】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業の組立現場にある様々な工具を把持し、ネジ締め・圧入・嵌合い等の基本組立動作を行うことができるシステムを構築する。</li> <li>3DCADを利用して、ティーチングレスのバリ取りシステムを構築する。</li> <li>これまでにある食品の整列システムを構築したことがあるが、その経験を生かして様々な形状の食品に適用できる整列システムを構築する。</li> <li>物流現場において、多様なサイズの通い箱を指定した場所から取り出し、指定した位置に運ぶシステムを構築する。</li> </ul>	

※各類型での【例】はあくまで事業のイメージを示す一例であり、この提案であれば採択するというものではありません。

公募期間（追加公募）：平成29年5月11日（木）～平成29年6月30日（金）  
 公募要領など公募に関する詳細は、日本ロボット工業会のホームページをご覧ください。  
<http://www.jara.jp/hojyo/sierkoubo.html>